

2017 年春学期レポート

日本財団聴覚障害者海外奨学金事業
第 10 期留学奨学生
山本綾乃

Gallaudet University
M.A. Deaf Education Special Program

三年間の留学生活も、とうとう最終学期となりました。卒業プロジェクトが本格的に始まり、計画的に一日一日を大切に過ごしました。ケンダル聾学校の放課後プログラムにもスタッフとして参加し、ろうの子どもたちと元気に活動して来ました。

○学習面

今学期受講した講義は以下の四つです。

- EDU 720 Introduction to Research (3)
- EDU 731: Home, School, and Community for Diverse Learners (3)
- EDU 711: Literacy Applications in ASL/English Bilingual Classrooms K-12 (3)
- EDU 768: Capstone (1)

それぞれの内容について簡単に説明します。

• EDU 720 Introduction to Research (3)

この講義は、三年間で履修した講義の中で一番苦勞しました。なぜなら、初めてのオンライン講義であり、全て英語とアメリカ手話(ASL)で行われたからです。さらに、ろう教育の学生だけでなく、他専攻の学生も一緒に受講していたのでした。みな同じテーマなら、意見交換の内容もまだ理解できたのですが、各自興味のあるテーマを設定し、それについて論文調査し、意見交換するといった内容でした。全て英語で、ASL も早いため、その場で直接確認することができず、内容を理解するのに時間が必要でした。担当教授と実際に会って説明を受けたり、課題提出の延長を頂いたりしながら進めていきました。自分のペースでなんとか課題をこなし、残りは夏学期以降へ保留することになりました。

• EDU 731: Home, School, and Community for Diverse Learners (3)

「多様性」というキーワードを中心に、講義名の通り、家庭と学校、コミュニティの三つの枠から、子どもたちをどのようにサポートしていくかを考えました。毎週事例研究をもとに、自分ならこんな対応をするという意見を出し合いました。

• Literacy Applications in ASL/English Bilingual Classrooms K-12 (3)

この講義は、バイリンガル教育の理論を学びながら、教育実習に活かすという内容です。初めに理論の説明を受けた後、それぞれの学生の実習の様子を共有し、指導案の確認修正を進めます。しかしながら留学生はなかなか教育実習の受け入

れ先が見つかりません。教授と教育学部長が相談した結果、今回初めて留学生だけの講義が開講されました。主に理論概念を学びましたが、内容が奥深く、一回の説明ではなかなか理解し難いところがありました。毎回それぞれの理論を説明して頂き、自分の言葉で説明する練習をしたり、教材を使ってミニ模擬授業を行ったりしました。最終的には、それらの理論をバランスよく使用した指導案を作成し、ギャロデット大学の多目的スペースでパネル発表をしました。教授は留学生の私たちに一つひとつ丁寧に説明して下さい、三年間の講義の中で最もバイリンガル教育の理論を再確認できた講義となりました。

・ EDU_768: Capstone (1)

卒業プロジェクトの講義です。アメリカのろう教育について学んできて一番印象に残ったのは、個別教育計画(IEP)そして個別教育計画会議でした。それは特別支援教育の中で法律として認識され、計画そのものが契約書なのです。学校側はその計画に書かれた内容に従って、支援していくことが必須となります。子どもと担任の先生だけでなく、保護者や多分野の専門家が集まって会議を開催し、一人ひとりに応じた支援を行っていく環境の良さを感じました。論文を集め、それらについて自分の言葉でまとめました。さらに、知り合いの保護者や学校現場と連絡をとり、実際に IEP 会議に参加しました。それらの経験をもとに、IEP ハンドブックを作成し、担当教授の前で約 20 分間のプレゼンテーションとフィードバックを頂きました。

○生活面

週に三日、ケンダル聾学校の放課後プログラムスタッフとして活動しました。四歳児から小学校中学年までの子ども達と共に様々な活動をしました。例えば、室内プール、屋外遊び、料理などです。高学年になると、バスケットボールやバレーボールなどのスポーツも始まります。学校の中にこういった放課後プログラムが毎日あるのは、子どもたちにとって日常的に縦の関係を築くことのできる良い機会であると思いました。

講義の課題について。文法などの細かい確認は、アメリカ人学生に週三時間、個別で指導してもらいました。彼女は同じ教育学部で、とてもフレンドリーな方であり個人的な話もたくさんさせて頂きました。

三時間の講義を四つ受講し、放課後プログラムスタッフとしての仕事、そして課題とチューターという大変充実した学期でした。

○卒業式

皆様のご支援ご協力のおかげで、5月12日に無事卒業式を迎えることができました。憧れのガウンとハットは大学院卒業のシンボル、そして日本財団・ASL協会のサッシュを身にまとい、大舞台に立つことができました。私の苗字の頭文字 Y は全学部の院生の中で最後、席も一番後ろでした。最後列から全体を見渡すことができた賑やかな会場は、一生心に残る大切な思い出となりました。

ASL 協会の理事である秋山奈巳さんが、卒業式に参列してくださいました。出会った時からずっとサポートして下さるとても心強い方です。お忙しい中、ありがとうございました。

さらに、留学生のための卒業パーティーも開催されました。みな卒業間近で課題や発表など忙しい中、準備を重ねてきました。来年度からは国際オフィスの職員たちが主催して下さるとのことです。昨年度から始まった、留学生のための卒業パーティー。今年、ギャロデット大学の公式サイトで全体に発信されました。これからも継続され、伝統的なイベントになることを祈っています。ちなみにアメリカでは、誕生パーティーは当事者自身が主催者になります。

○本帰国まで

ギャロデット大学大学院在籍中にケンダルろう学校での教育実習が叶わなかったことが心残りでした。春学期より実習をさせていただきたいと直接学校に問い合わせ続けた結果、ようやく熱意が通じ夏休み期間中の実習はどうかという提案を頂くことができました。六月末からの三週間、幼稚部から中学部までの教室でお手伝いをさせていただきながら、各学部の様子を知ることができました。ほとんどがろう者の先生で、手話コミュニケーションが通常的环境であり、カウンセラーや言語聴覚士も必要に応じて対応されていました。多分野の方がそれぞれの専門性を活かして子どもたちをサポートされており、質の高い教育環境の場で大変勉強になりました。